

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人権教育研究室
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 多様な専門分野分野の教員による人権教育研究の充実を図るため、教育学部、国際学部から一人ずつ研究会のメンバーに加える。	→教育学部、国際学部それぞれから研究会への人員2名増員。	C	B	/	/	/
2. 国際人権に関する研究体制を整備するため、国際社会と人権をテーマとする指定研究を設ける。	→国際社会と人権テーマとした指定研究をひとつ設置。	C	C	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 人権教育研究室は大学の機関の一つであるが、構成員ならびに活動範囲としては学院全体に及んでいる。また、近年の法人合併により「キリスト教主義」を教育理念として全構成員に周知するには時間がかかる現状もあり、本来の理念の共有が困難となっている現状がある。また、活動範囲も設置の理念、目的を越えているのが現状である。
☆ 小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 人権問題講演会ならびに公開研究会、さらには人権教育科目の運営にあたっては、国連の人権委員会や「人種差別撤廃条約」に対する国連から日本に向けてなされた提言を参考にしながら、主題や運営を行っている。また、その検証は、人権教育研究室室長会ならびに評議員会、人権教育プログラム委員会、授業担当者会において定期的に行っている。
その他	

《評価指標データ》

- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

○専任教員がいない中で、目標1.に関連して、「教育学部、国際学部から一人ずつ研究会のメンバーに加え」という目標が、CからB評価となりましたが、その根拠についてもう少し具体的な説明が期待されます。さらに、目標2に関連して、「現状の説明」は明確ですが、「国際社会と人権」に関する指定研究設置の進捗状況についてもう少し具体的な説明が期待されます。

○この項の記述は、「教育研究組織としての適切性とその検証」という項目内容に、やや適合していないと考えます。

○「0 理念・目的」に記述された活動内容を、本項目でも記述されることをお考えください。

○小項目4.0.1で示された課題の方策は何かお考えでしょうか。

○昨年度、伸長させる方策、改善方策で示されたものは、どうなったのでしょうか。それらを確認、記述することでPDCAが回っているか検証することができます。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1
基盤評価：なし
達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2
基盤評価：なし
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

①国際学部ならびに教育学部より研究部会への増員に関する件：人権教育研究室室長会のメンバーに各ひとりずつ加わっていただき各部・聖和キャンパスの情報交換等を行うことが容易となっている。②教育研究組織の適切性に関する検証について：毎月定期的開催される室長会ならびに年に数回行う集中審議によって不断に組織の適切性についての検証を行っている。また、人権科目に関わる学内外の講師との意見交換会において、外部からの意見聴取を行っている。そうしたことを評議員会に報告し、毎年度適切な検証を行っている。③「理念／目的」に記述した内容を、本項目でも記述する件：次年度の報告にて対応する。④小項目4.0.1で示された課題の方策に関して：学長指定研究「関西学院と人権教育」において本学における人権に関する一貫教育の可能性を探る試み（各部ならびにキャンパス間での情報交換ならびに研究員の追加）を始めている。その手始めとして今年度初等部から研究員を初めて受け入れることが出来た。また、昨年度は千里国際キャンパスに出向き、人権教育に関する意見交換を実施した。今年度も年内ならびに年明けに同様のことを実施予定である。⑤昨年度伸長させる方策等で記述したことに関して：伸長させる方策に関しては、既述のように初等部から研究員を追加した。また、10月19日に短期大学の教員に対して「同和教育と関西学院大学の人権教育」という主題で室長が講演を行い、関西学院大学における人権教育の歴史と目的ならびに現状と課題について意識の共有を目指す予定である。また、人事課とは「障がい者」雇用の促進に関する意見交換を行い、総合支援センターとは共催で2012年1月20日に研究シンポジウムを開催の予定である。